

稲沢市ごみ処理基本計画（改定案）に対するパブリックコメントについて

1 募集期間 令和2年12月1日（火）～12月28日（月）

2 意見提出者数 3人

3 意見件数 8件

4 提出されたご意見の要旨と市の考え方

（ご意見は、文意等を損なわないように要約・補足等をしております。）

No.	項目	市民から寄せられた意見	市の考え方
1	第2章 1 ごみ処理の流れ (5 ページ)	家庭系の不燃ごみと粗大ごみ、事業系の不燃ごみの一次工程として「手選別」を明記してはどうか。	家庭系の不燃ごみと粗大ごみにつきましては、令和元年5月に発生した環境センターの火災以降、破碎前にも手選別等を行っていませんので、「選別」と明記します。 また、事業系の不燃ごみにつきましては、そのほとんどが産業廃棄物に該当すると考えられるため、市の施設に搬入できるものは非常に限られており、破碎前の選別の対象とはしていません。 ※事業系の不燃ごみは、直径・厚さが3 cm超～10 cm以下の剪定枝等を想定しているため、「剪定枝等」と明記します。
2	第2章 2 ごみ処理量 (6 ページ)	(1)ごみの処理量及び(2)リサイクル資源等の収集量のグラフ内に、数値を記載してはどうか。	ご指摘のとおり修正します。
3	第3章 5 ごみの発生・排出抑制のための方策 (1) 市の取組み (2) 市民の取組み (15 ページ)	リサイクル資源の回収日に町内会役員が立ち会うことは、負担が大きいように思う。 また、リサイクル資源もごみの集積場所で回収できるとありがたい。	リサイクル資源の回収場所での立ち会いは、盗難防止や分別マナーを徹底するうえで非常に重要であるため、無理のない範囲でお願いしています。 現時点では、ごみ集積場所でのリサイクル資源の回収は予定しておりませんが、国ではプラスチックの処理方法の見直しを検討して

			おり、実現されれば、本市の収集方法にも変更が生じる見込みです。その際には、リサイクル資源の収集方法につきましても、併せて検討してまいります。
4	第3章 6 分別の種類及び区分 (1) ごみ (16 ページ)	剪定した木や草刈りした草は可燃ごみの日に出しているが、他のごみが入れられないほど、多くなってしまう。別に収集して、リサイクルなどの処理をしてはどうか。	剪定した木や草刈りした草の別収集につきましては、収集・処理に係る費用の増加等の理由から、現時点では、予定しておりません。 また、リサイクルについても、同様です。 なお、一度に出される量が指定ごみ袋5袋以上となる場合は、市では収集できませんので、何回かに分けてお出しいただくか、本市の一般廃棄物収集運搬許可業者（有料）にご相談ください。
5	第3章 6 分別の種類及び区分 (1) ごみ (16 ページ)	ライターやスプレー缶は事故が多く火災につながる。それぞれ分けて収集して処理してはどうか。	事故防止の観点から、品目ごとに収集・処理方法を分けることは重要ですが、反面、処理費用がかさむ問題があります。今後それらを総合的に勘案し、本市に適した収集方法の検討を進めてまいります。
6	第3章 6 分別の種類及び区分 (1) ごみ (16 ページ)	本市の中間処理施設に磁選機・アルミ選別機を導入し、アルミ缶とスチール缶を合わせて回収してはどうか。	本市の処理施設内の処理過程にも磁選機・アルミ選別機はございますが、現在、本市の処理施設ではなく再商品化事業者でリサイクルしております。 より高精度なリサイクルを行うためには、排出段階での分別が必要と考えております。 そのため、現時点では、アルミ缶とスチール缶を合わせた回収は予定しておりません。
7	第3章 7	本市職員が担当している分	現在、可燃ごみ収集車両 14 台の

	<p>処理及び実施主体 (18 ページ)</p>	<p>の家庭系可燃ごみの収集業務を民間業者に委託することはあるのか。</p> <p>民間委託増やすことで、朝早くに収集業務を終了させ、人件費削減もできるのではないか。</p>	<p>うち、11 台が民間委託、3 台が本市職員により運用されています。</p> <p>突発的な業務や契約外の作業の発生、また、緊急時や災害ごみへの初期対応などに備え、本市職員によるごみの収集業務も必要と考えております。</p> <p>また、民間委託を増やすことで、朝早くに収集を終了することは可能ですが、稼働台数も増加することから、人件費削減の効果は薄いものと考えられます。</p> <p>したがって、現時点で、民間委託の割合または稼働台数を増やすことは検討しておりません。</p>
8	<p>第3章 8 処理施設の整備 (19 ページ)</p>	<p>ごみの中間処理施設の整備に関し、長期利用を図るとともに、新規導入についても検討され得るのか。</p>	<p>現時点では、新規設備の導入の考えはありませんが、先進事例を参考にしながら、現行のごみ処理施設の適正運用・適正管理に努め、長期利用を図ってまいります。</p>